

ボツワナ共和国月報(2022年3月)

主な出来事

【COVID-19】

- 感染者数(第4波は収束しつつある)

【内政】

- カーマ前大統領の弟、情報保安局(DIS)に身柄を拘束される
- COVID-19ワクチン等製造プラント着工式

【外政】

- マシシ大統領の2020ドバイ国際博覧会出席
- ボツワナ、ロシアからキンバリープロセス(KP)の議長職を引き継ぐ
- TICAD閣僚会合にクワペ外務国際協力省大臣出席

【経済】

- 30%のボツワナ人が栄養失調(FAO)
- UNDP、ラボ機材を水道公社に寄付
- 2月の年間消費者物価指数上昇率は10.6%
- 今年7月に初の独立系発電事業者が設立

【COVID-19】

○感染者数

オミクロン株流行により第4波が到来し、客年12月中旬より感染者数が急増したが、3月に入り収束しつつある。3月(3月10日から23日まで)の一日平均感染者数は59名。

【内政】

○カーマ前大統領の弟、情報保安局(DIS)に身柄を拘束される

カーマ前大統領の弟であるツェケディ・カーマ氏(国会議員。ボツワナ愛国戦線(BPF)党员)及びアンソニー・カーマ氏は18日、ボツワナ治安当局(DIS)に拘束され、セベレのDISオフィスにて拘留された。本件に関し、ボツワナ愛国戦線(BPF)は最も強い言葉で非難する旨の報道発表を発出した。

○COVID-19ワクチン等製造プラント着工式

28日、マシシ大統領は、ワクチン等製造プラントであるNantBotswanaの着工式に出席した。同大統領は、ワクチン製造のための無塵室建設は、国家開発目標の達成に向けた重要な一歩であると述べるとともに、同プラントは新型コロナウイルスワクチンの製造のみならず、癌を含む疾患にも取り組んでいく旨述べた。

【外政】

○マシシ大統領の2020ドバイ国際博覧会出席

マシシ大統領は、2020ドバイ国際博覧会へ出席した。同大統領の出席中、ボツワナのダイヤモンド企業であるオカバンゴ・ダイヤモンド会社(ODC)とUAEのドバイ・マルチ・コモディティーセンター(DMCC)とのMOUが締結された他、ボツワナ投資貿易センター(BITC)主催の投資貿易会議が開催された。カフェラ投資・通商産業大臣は、3月31日の国会において、本博覧会にはボツワナから10社の企業が参加するとともに、前述のBITC主催会議において250名の出席者があったことを報告した。

○ボツワナ、ロシアからキンバリープロセス(KP)の議長職を引き継ぐ

ボツワナは客年11月に正式にKPの議長に任命されていたが、議長職就任にかかる各種手続きを経て、今般、現議長のロシアから引き継ぐこととなった。議長には、(ボツワナ鉱物エネルギー水資源省内に設置された)ダイヤモンド・ハブ・センターのジェイコブ・タマヘ調整官が任命された。副議長職はジンバブエが務める。

○TICAD閣僚会合にクワペ外務国際協力省大臣出席

8月27日及び28日、TICAD8がチュニジアにて開催される。これに先立ち、3月26日及び27日に、アフリカの開発における優先分野について協議するため、閣僚会合が開催された。ボツワナからはクワペ外務国際協力大臣が参加し、TICADが持続可能な発展を推進するとのTICADの理想に賛同する旨強調し、重要な開発パートナーである日本のTICADプロセスに対するボツワナの支援及びコミットメントを再確認した。

【経済】

○30%のボツワナ人が栄養失調(FAO)

FAOの最新統計によると、2018年から2020年の間、29.3%のボツワナ人が栄養失調となっており、高中所得国としては高い数字となっている。ボツワナにおける栄養失調の主な指標は、ビタミンとミネラル不足であり、UNICEFが、6～59カ月の子どもに対し、ビタミンA補給プロジェクトを実施している。

○UNDP、ラボ機材を水道公社に寄付

UNDPは、水道公社に対し、200,000 プラ相当のラボ機材を供与した。これら機材は、飲料水の供給、排水管理や衛生関連のサービス実施のため、ママシア・ラボにて活用される予定。

○2月の年間消費者物価指数上昇率は 10.6%

ボツワナにおける2月の年間消費者物価上昇率は、前月に引き続き 10.6%と2か月連続して二桁の大台となった。同月の消費者物価の上昇は、運輸が一番大きく、続いて住宅・水道・電気・ガス・その他燃料、食品・非アルコール飲料などであった。

○今年7月に初の独立系発電事業者が設立

モアギ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障担当大臣は、ボボノン町で開催された BPC と南アフリカ企業スターディー・エネルギー・コンソーシアム・プロジェクト社による起工式で、今年7月、ボツワナで初の独立系発電事業者の設立を発表した。同社は、ボボノン町とシャカウェ村で最初のプロジェクトを実施し、今後、コレポローレ村で 4MW、セレビ・ピクウェ市で 50MW の発電事業実施に向けた交渉が行われる予定としている。